

事業レポート

スタディプログラム

共生型のまちづくり



① 共生型地域福祉拠点とは？

② 共生型の理念やアイデアを「学ぶ」

- (1) 第1回相談会「地域共生社会と担い手づくり」(2019年11月9日)
- (2) 第2回相談会「自分ごとからはじまる共生型のまちづくり」
(2019年12月20日)

③ 想いを語る実践者と「出会う」

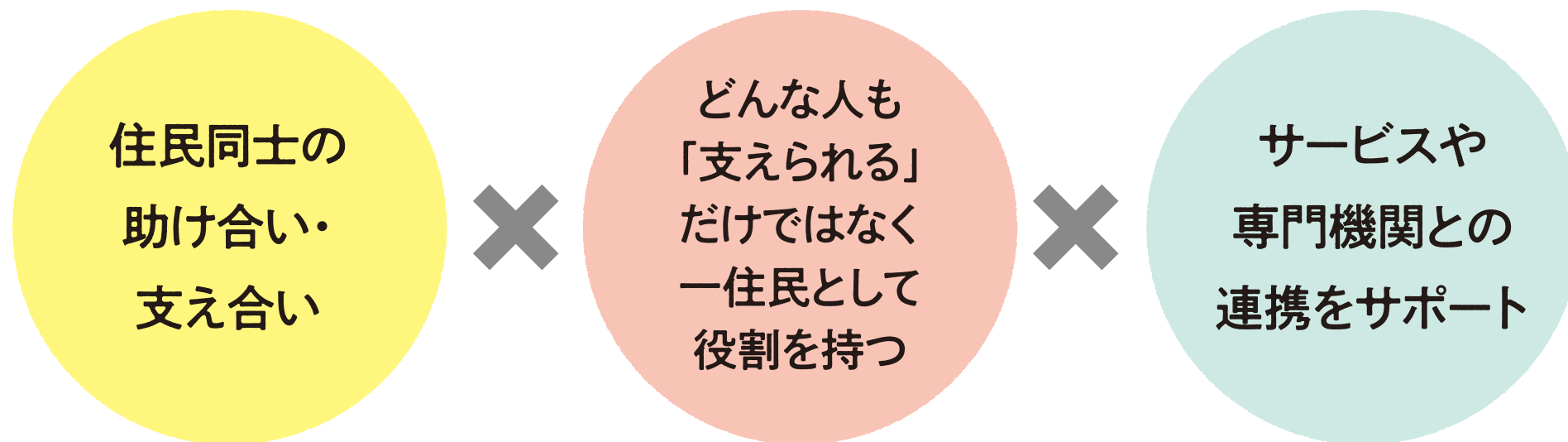
～先進事例視察～

- (1) 一人ひとりの安心感をつくりながら、
段階的に多世代につながっていく場
～NPO法人ねっこぼっこのいえ(札幌市豊平区)
- (2) 地域力で作った空き家を軸とした多世代活躍拠点
～NPO法人ひととまち工房(旭川市)
- (3) 多様性の理解×個別性の理解を実践する共生サロン
～NPO法人ノーマライゼーションサポートセンター
こころりんく東川(東川町)

④ 「つながる」

～広域性をカバーして学び合うネットワークづくり～

① 共生型地域福祉拠点とは？



人口減少や高齢化、価値観や生活様式の多様化など地域社会を取り巻く環境の大きな変化に伴い、過疎化や単身高齢者の増加等により、家庭や地域内の支え合いが希薄となり、孤独死や引きこもり、貧困や高齢化等による孤立などが課題となっており、高齢者や障がいのある方、子どもなどが地域住民と集う地域のコミュニティ活動の場において、お互いに支え合い安心して生活できる仕組みづくりが必要となっています。

このため、北海道では「共生型地域福祉拠点」の設置推進に取り組み、拠点の支援策の一環として、「共生型のまちづくりスタディプログラム」として、相談会や先進事例視察ツアー、事例収集を実施しました。

② 共生型の理念やアイデアを「学ぶ」

共生型の取り組みを志す方々が集まって、悩みの共有や課題の可視化、解決のアイデアを自由に話し合う「相談会」を開催しました。相談会を通して、共生型の取り組みに関心がある人同士の顔の見えるネットワークも形成されています。

(1) 第1回相談会「地域共生社会と担い手づくり」

日時:2019年11月9日(土)13:00-18:30

会場:北海道庁 共用会議室(札幌市中央区北3条西6丁目)

講師:大原裕介氏(社会福祉法人ゆうゆう 理事長)

参加者:16名



プログラム

- 参加者自己紹介
- それぞれの取り組みについて
2人一組で現状共有
- 講師からの事例紹介、質疑応答
- 課題別のグループメンタリング※
 - ・地域とつながる方法
 - ・企画や事業案の立て方 など
- 事例を取り上げて全体メンタリング
- ネクストアクションの設定

※メンタリングとは、指示や命令によらず、対話による気付きと
助言を通して自発的、自律的な成長を促す人材育成方法のひとつ。

ダイジェスト

- 全体ディスカッションを講師が整理する
中で明らかになったポイントは、共生型
拠点は「ひとりのニーズ、ストーリーを大
切にして発展するもの」であると同時に
「地域の人の財産」として地域に在ること。
- 広報周知戦略からインフォーマルサー
ビスの開発まで、多岐に亘る相談について
話し合いながら、共生型の理念を参加
者全員で確認しました

(2) 第2回相談会「自分ごとから始める共生型のまちづくり」

日時:2019年12月20日(金)13:00-18:30

会場:北海道庁 共用会議室(札幌市中央区北3条西6丁目)

講師:一井暁子氏(一般社団法人つながる地域づくり研究所 代表理事)

参加者:12名



プログラム

- 参加者自己紹介
- 「共生型のイメージ」についての
ディスカッション
- 講師からの事例紹介、質疑応答
- 個別の現在の状況と課題の確認
- 4人一組で状況共有・情報交換
- グループメンタリング
- 全体でメンタリング内容の共有
- ネクストアクションの設定

ダイジェスト

- 「子育てしやすい町」として全国的に有名な岡山県奈義町の取り組みについて、講師から事例提供頂きました。
- 共生型のまちづくりで大事なものは、肩の力を抜いて、「わくわく」を仲間と一緒に共有しながら「自分ごと」を「自分たちごと」にしていくこと。それを学んだ参加者の方々と講師とで、笑い声の絶えないディスカッションを繰り返し広げました。

③ 想いを語る実践者と「出会う」～先進事例視察～

実際に共生型の取り組みを行っている拠点に足を運び、運営のコツや実践の中での試行錯誤について話を聞いてアイディアを刺激する視察ツアーも開催しました。拠点ごとの雰囲気、その拠点に関わる人びとの想いが反映されていることを参加者の皆さんは現地で肌で感じていました。

視察Aコース

「子育てサロンから想いの通じ合う多世代交流拠点へ」
日時：2019年11月15日(金)
視察先：NPO法人ねっこぼっこのいえ(札幌市豊平区)
参加者：5名



視察Bコース

「地域活性化と多世代交流のプラットフォーム!」
日時：2019年11月26日(火)
視察先：NPO法人ひととまち工房(旭川市)
参加者：6名



視察Cコース

「多文化共生のまちづくり」
日時：2020年1月30日(木)
視察先：東川町内(調査員のみで視察実施)



④ 「つながる」～広域性をカバーして学び合うネットワークづくり～

広域な北海道の中では、地域ごとに、共生型の取り組みを始めたい、進めたい、広げたい人同士が出会い、学び合う身近なネットワークも必要です。今年度は、それぞれの地域で共生型の取り組みを進める実践者の方々を中心としたネットワークづくりの準備も行いました。

圏域ごとのネットワークの方々には第1回相談会にもファシリテーターとして参加頂き、圏域ごとのつながりづくりや、圏域勉強会の準備などを進めて頂いています。



ねっこぼっこのいえ



一人ひとりの安心感を
つくりながら、
段階的に多世代につながっていく場

0歳から90歳まで、赤ちゃんや小中学生、大学生スタッフや子育てママ、頼りになるベテランスタッフ、近所のシニアボランティア……いろんな人が役割と安心感をもって関わっている本気の「多世代型ひろば」が札幌市内で運営されています。

拠点概要

所在地:札幌市豊平区月寒東1条2丁目10番9号

運営法人:NPO法人ねっこぼっこのいえ

拠点の主な活動内容:

- みんなのひろば、おかえりひろば
(札幌市地域子育て支援拠点)
- 赤ちゃんひろば
- 学びのひろば
- ねっこアフター、学さぼ(他法人との共催)



Story of Change

家庭生活が複雑な高校生のC君と、両親の離婚の影響で荒んでいて周囲との関係づくりが難しい小学生のS君。ひょんなことから、S君の好きな将棋をC君が打てるのが「ばれて」しまい、一緒に将棋を打つ仲に。次第に2人の間に子弟の絆が生まれていった。

作業所になじまず転々とした末に、ひろばでのボランティアを希望してきた発達障害のある20代の青年。障害ゆえに、ひろばでの仕事にも悩んでいたが、障害のある子を育てるひとりのお母さんに出会い、障害特性に合った環境の整え方を教えてもらった。お母さんもまた、自分の子どもも職場の配慮があれば働ける、という明るい見通しをもち、柔らかな表情で青年に接している。

START

地域の子どものための「多世代型広場づくり」

地域の幼稚園が父母にアンケートを実施。そこからは、「通勤族が多く、近くに頼れる人がいない」「兄弟もいないので親子だけで過ごしている」という実態が見えた。そこで、園児の活動が終わった後のスペースを使った地域の居場所づくりを幼稚園と協力して2007年に開始。

活用できる仕組みのリサーチを重ねて、2011年から札幌市地域子育て支援拠点の指定を受けることに。

赤ちゃんひろば

0~2歳のお子さんと保護者、妊婦さん限定のひろば。「みんなのひろば」だと遠慮しがちな、小さいこどもの親も安心して参加できる。2歳になるころには卒業して「みんなのひろば」に自然に移行でき、関係性が切れ目なく続きます。

みんなのひろば

赤ちゃんからお年寄りまで、誰でも参加できる多世代交流ひろば。運営側が大事にしているのは、条件なしの「在る・居る」を保証すること。

学びのひろば(講座)

ハンディについての理解を含め、子育てをいろんな人たちと考えたり語り合ったりする会。
・障害当事者が語る会 ・アート教室
・学校についてのおしゃべり会 など

おかえりひろば(夜の多世代型子育てサロン)

～想い～

「もっと早く出会ってれば……。」子育て支援を続ける中で、ひとり親家庭に対する早期の孤立防止の必要性を痛感。

～TRY&ERROR～

夜の子育てサロンの札幌市地域子育て支援事業としての制度化を提案するために、1年間民間助成金を活用して試行し、アンケートを実施。1000以上の回答を集め、その8割以上に上る「夜の子育てサロン」の必要性の声を集めた。

～POINT～

- 持続可能な仕組みにするために「仕組み化」にこだわる。
- ニーズを見える化して、共感者を増やす。

ねっこアフター(若者支援)

時間が合わない、大人数は苦手、などの事情でみんなの広間への参加が難しい中学生以上の若者向けのひろば「ねっこアフター」。

次の展望

ひとり親家庭の孤独。DVや離婚、過労等による心身の疲弊。早い段階でそうした家庭とつながり、孤立を予防する「おかえりひろば」は、仕組み化への動きを成功させ、やっと端緒を開いたところ。今後はターゲットのひとり親家庭に届く**広報戦略の強化**が課題だ。また、ひろばの運営自体を続けていくための**事業運営戦略**づくりも日々意識している。

共生型地域密着デイ匠家



地域力で作った 空き家を軸とした 多世代活躍拠点

築50年の古民家を利用した「共生型地域密着デイ匠家」。開設前から地域の人と共に学び合う勉強会を実施し、拠点の必要性を理解するたくさんの地域住民と一緒に空き家を改装して運営しています。

拠点概要

所在地：旭川市永山8条13丁目8番22号

運営法人：NPO法人ひととまち工房

拠点の主な活動内容：

- 地域密着型通所介護および生活介護(共生型サービス)
- 夜型子育てサロンわんぴ〜す
- 地域食堂
- 貸館事業 など



Story of Change

89歳のおばあさん。認知症のため家では好きだった調理をすることが出来なくなった。「それでも本人の得意を活かして活躍してほしい。」匠家で、支援者と一緒に夜の子育てサロンのカレー作りに取り組むことに。「今日のカレー、今までのよりおいしい！」サロンに来た子どもたちの感想を翌日スタッフから聴くのを楽しみにしているおばあさん。直接は会えなくても、拠点を通して次世代を担う子どもたちと接点を持ちやりがいを感じています。

★企画

- ・アンガーマネジメント講座
 - ・マナー講座
 - ・メーカーに働きかけて、一夜限りのワインバル開催!など
- 今後は、こどもが担い手となって企画実施していく構想も。
★広報：はじめは少数だったが、SNS (facebook) の活用により一気に参加者が増加。

START

まちづくり勉強会!

2018年から1年間かけて、地域住民と共生型の理解を深めるための地域分析。

3か月に1回ごとに、ゲストを招き、レクチャーと意見交換を実施。

- 養護学校校長を招いて、「地域の障害者」をテーマに
- 障がい児の父母を呼んでインクルーシブ教育をテーマに
- 当事者ゲストによるLGBT理解
- 旭川市における自殺の現状(市職員によるレクチャー)

地域の人と一緒に拠点となる空き家整備!

デイサービス設立

～想い～

「ありがとう」といわれる嬉しさをケアされる側にも実感してもらえる生活を!

～TRY & ERROR～

当初はカフェ併設のデイサービスを構想していたが、立地の関係し断念。しかし結果的には、「家」という本人たちが落ち着く空間の中で役割を探ることができるように◎

～POINT～

なんでも「みんなでやる」ではなく、個性を大事に。

デイ利用者が子育てサロンの影の担い手に!

夜型子育てサロンわんぴ〜す

～想い～

シングルマザーとして子どもを育ててきた大人の経験から、働きながら子育てをしている人が地域とつながるように

～TRY & ERROR～

自分の経験や想いと実際の地域特性とのギャップ。シングルマザーよりは共働き世帯が多く集まる場に。今は共働き世帯の悩みに訴求する企画を考えている。

～POINT～

「○○できたらいいよね」を言って終わりではなく、どんどん実現していく。次第に、本当に実現したい想いに近づける。

地域食堂

まちづくり実行委員会が主体となって、お互いに顔の見える地域づくりの一環として開催。

◎設立以後も、地域の人が維持管理に関わる(除雪や看板づくりなど)

次の展望

様々な活動が組み合わさり、拠点を通じた住民同士の関わり合いが生まれる中で、さらに新しい協力者との出会い、協働が生み出されつつある。今後は、地域課題でもある次世代の担い手づくりの観点から、大学生や若い世代を中心に企画を立て、高齢者がサポートしていきような構造づくりにチャレンジしていく。子育てサロンで出会った地域の共働き家庭の課題の掘り下げにも取り組む予定だ。

東川町共生サロンこころん



多様性×個別性の理解を 実践する共生サロン

町外からの移住者、町立日本語学校の設立による外国人留学生など、多文化共生が進む東川町。その中心部にある「共生サロンこころん」は、運営法人の障害者支援の専門的視点を活かしながら、一人ひとりのニーズに丁寧に応える活動を展開しています。

拠点概要

所在地：上川郡東川町東町1丁目7番10号
 運営法人：NPO法人ノーマライゼーション
 サポートセンターこころんく東川

拠点の主な活動内容：

- こころん食堂、ここわーく（地域生活支援事業における自発的活動支援事業、理解促進研修・啓発事業）
- こころん研修会の開催
- 自立支援サービス



Story of Change

現在の「ここわーく」で取り組んでいるのは、古封筒をリメイクしたかわいい雑貨の製作作業。母親がこころんへ相談に来たことがきっかけでつながりを得た方がデザインに参加してくれたり、細かい手作業が得意な人、色塗りが出来る人など、分業化してそれぞれ得意な人が取り組んでいく。そうした形で、柔軟に地域住民との協働が生まれています。

コラム～東川町の取り組み～

岡山県奈義町ではじまった、【自分の好きな時間に、やりたい仕事を自分らしくできる仕組み】しごとコンビニ。東川町でも、2020年から試行が始まりました。しごとを手伝ってほしい企業や個人とちょっとだけ働きたい町民の方をつなぐ。多文化共生のまちならではの創発が期待されています。

START

拠点の 指定管理をNPOが 担うことに。

障害をもつ子の親の会や障害福祉の専門家、地元の農業者や介護・子育て関係者などからなるNPO法人を立ち上げ、2010年から「共生サロンこころん」の指定管理を担うことに。



共生サロン こころん開始

「障がいのある人もない人も気軽に出入りできる居場所をつくらう！」と、食堂・貸館機能をもった拠点として運営開始。

はじめは、来訪者のいない日々が続く……。

「働く」を軸にした支援

～想い～

一般就労や障害者就労継続支援の利用になじめない人や、これから働きたい人の練習の場を作りたい

～TRY & ERROR～

- ◎食堂業務での就労訓練
- ◎週に2回、1時間だけ集まって話しながらゆったり作業をする「ここわーく」
- ◎自分の家なら、ひとりなら仕事出来る人に仕事を届ける「とどっこロ」



地域住民同士の
場所・時間・
活動の共有

地域の人とつながる仕掛け

～TRY&ERROR～

まちの人に拠点を知ってもらうために、とにかくいろいろな企画を仕掛けてみた！

- ・映画上映会
- ・健康体操教室
- ・研修会
- ・先生も生徒も地域住民の「まちの教室」など

地域の人々の「やりたい」の声が形に

- ・地域住民の持ち込み企画
- ・特技を活かした働き方の試行
- ・共通の趣味を持つ人同士が集まる自主サークルの立ち上げ など

次の展望

地域住民一人ひとりの得意や「好き」を活かした関わり方を積み重ねた活動づくりで、行動障害がある人の仕事づくりにも取り組んでいる。さまざまな背景をもった人が関わり合う地域の拠点として日々賑わっているが、コミュニケーションに不安を抱える人も安心して来られる場としての微妙な**バランス**を保ち続けるのが、今後の課題でもある。誰のための場であるか、常に自問自答を繰り返しながら歩みを進めている。